

V. 生涯学習の必要性

幼児期からしつけや集団生活をとおして社会的なルールを学ぶように、人はどんなときでも必要に応じてルールや決まりを学ばなければなりません。幼児教育では基礎的な知識、学校教育では学力が求められます。社会に出れば相應の知識や技能、成人になり、様々な人生経験をしていくことにより、より深い知恵が求められ、人に教える立場で学ばなければならないこともあります。長い人生の中では、その場、その時に応じた学びが必要になってきます。

このように私たちの人生には学習が欠かせず、生活の中で覚え、経験する知識や知恵は、すべて生涯学習であると捉えられるものです。そして生涯学習の必要性がより高まってきている要因には、次のようなことが挙げられます。

私たちを取り巻く社会は常に変化し、新しい技術や産業が生まれます。それに併せ、新しい知識や技能の習得がその都度要求されます。

従来の学歴型社会も、次第に、社会に出てからの学びや経験を重視するようになり、企業などでは研修や資格取得などを積極的に進めています。

社会通念も、仕事重視から家庭や個人を大切に方向へと変化し、週休2日制や労働時間短縮が定着するなかで、個人の自由な時間が増えてきました。加えて今日のような高齢化社会では、誰もが元気で長生きすることを望み、生きがいを求めて暮らしています。

こうしたことから、心の豊かさを学習に求める傾向が強まっています。

新しい知識や技能の習得は自分を高めます。学んだ経験で得た評価は次の意欲につながり、自分を磨きます。心を豊かにする学習は人に生きがいをもたらします。自己を高め、磨き、生きがいを持って幸せな人生を送ることこそ、生涯学習が目指すものです。

VI. 基本目標

平成22年3月に策定した「真岡市生涯学習推進基本構想・基本計画（前期計画）」、平成27年3月に策定した「真岡市生涯学習基本計画（後期計画）」においては、市民憲章に基づいて作成された、5つの基本目標を設定していますが、今回は「総合計画」の中から生涯学習に関する政策や施策を抜粋し、以下のとおり、4つの基本目標を設定し、生涯学習の観点からその実現に努めてまいります。

VII 課題及び方向性

学習課題設定の基本的な考え方

真岡市は、「総合計画」のもとに様々な施策を展開し、住みよいまちづくりに取り組んでいます。

今回、真岡市生涯学習基本構想・基本計画を改定するにあたり、現在実施している事業を生涯学習の観点から整理し体系化を図っていきます。

ここでは、「総合計画」を柱に設定した基本目標から、さらに具体的な学習課題を設定し、学習課題ごとに課題及び方向性を定めます。

1 ひとづくり

(1) 学校教育の充実

本市の学校教育の充実を図るため、確かな学力の育成とともに、心の教育と健やかな体づくり、そして国際化に対応した教育を行います。

情報化の推進では、学校のICT環境を整備し、ICT機器を活用した授業による、児童生徒の学習への興味・関心の向上に努め、個別に最適で効果的な学びを進めるとともに、学校、家庭、地域の連携により地域で子どもたちを育む力を高め、児童生徒が安心して学べる環境づくりに取り組んでいきます。

また、「自然教育センター」では、豊かな自然の中で集団宿泊体験活動を行うなど、教育の充実に努めています。

(2) 生涯にわたる教育の充実

急激な社会変化により、地域や個人が抱える課題が多様化、複雑化する中で、市民一人ひとりが、夢や生きがいを持って豊かな人生を送れるよう、幼児期から高齢期まで、生涯にわたって学び、自分の可能性を広げること、そして、市民一人ひとりが生涯学習を理解し、年齢や性別等に関わらず、自覚を持って学習に取り組む、自己を高めていくことが求められています。

このため、幼児期から高齢期までの生涯にわたる学びを意識し、子どもたちの「未来を切り拓く力」を育むとともに、一人ひとりの教育的ニーズや現代的、社会的な課題に対応したさまざまな学習機会の提供、学習情報の提供、学習の場の整備などに努めます。

(3) 青少年のための学習の充実

青少年の健全育成は、家庭だけでなく地域社会全体が見守り、支援していくことが重要です。